

## 謹賀新年

平成30年の新年あけましておめでとうございます。旧年中は「稲むらの火の館」に御支援を賜りありがとうございました。



昨年は「世界津波の日」制定を記念した「記念碑・繋がる形」が建立されました。

館内の表示等が多言語化されました。3D映画は既に英語、中国語、韓国語、フランス語、インドネシア語、スペイン語で聞くことができるようになっていました。館内展示物も、スマートフォン、タブレットでQRコードを読み込んでいただけたら、説明文が出て理解していただけるようになりました。

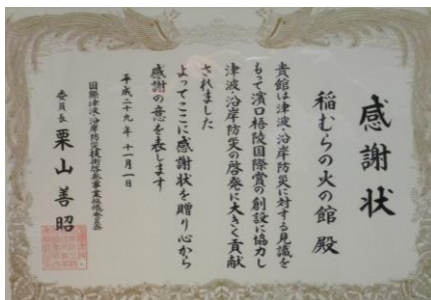
館内に配置された人型ロボットペッパーで、遊びながら防災に関心をもってもらえます。

11月には3階企画展コーナーが、「世界津波の日」コーナーにリニューアルされました。

外国からのお客様に向けた対応をしていますが、この取り組みは日本国内や、地元の皆様にもアピール出来るものと考えています。

「世界津波博物館会議」へ参加された7カ国の方々、「第2回濱口梧陵国際賞」受賞者も来られました。

一方、「濱口梧陵国際賞」の組織委員会から「稲むらの火の館」に国際賞制



定へ協力した事で感謝状をいただきました。

職員一同、本年も皆様の見学をサポートできるよう精一杯がんばりますので、よろしくご指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

## 「第8回稲むらの火講座」開催 !!

「稲むらの火講座」は第8回目になります。今回は、巨大災害対策、津波防災対策を専門とする関西大学社会安全学部准教授の先生です。

奥村与志弘先生は、2008年3月京都大学修了後、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター研究員、京都大学助教を経て、2017年4月より現職。東日本大震災では、政府の現地災害対策本部で宮城県へ常駐して支援されました。



現在、多様な専門性をもつ関西の企業に対する新規

防災事業のための共同研究、地域活性化と防災・減災の両立を目指したまちづくり支援などの活動に力を入れられています。

平成26、28、29年の3回NHKラジオが11月に「稲むらの火の館」へ特設スタジオを組んで「防災特別番組」を全国や世界へ放送された際、いずれもゲストとして出演されました。専門家の立場からですが、分かりやすく話されたのが印象に残っています。

演題 『広川町だからできる安全・安心なまちづくりー「企業・地域・行政の強み」と「太陽の防災」ー』

日時：平成30年3月17日(土)

午後1時30分～3時00分

講演会の定員は90名です。申込順とします。TEL 0737-64-1760へお申込ください。なお、講演を聞くだけは無料ですがその後館内を見学する場合は有料となりますので、予めご承知おきください。

濱口大明神縁起(その12)

濱田康三郎 (かわせみより)

ミス・ステラ・ラ・ロレッツはこう語り終って、ここで息を継いだ。ホールの中には咳き一つするものも無かった。人々は——ハーンを読んだことのないものはいうまでもなかった。読んだことのあるものはある丈に、古い記憶を新しく呼び起こされてまたひとしおに——いずれも宛らに魔法にでもかけられたように呼吸を凝らして、長話に稍汗ばんだ婦人の顔を見つめた。例えようのない厳肅さが会場内を支配した。感情の高まりやすい婦人達のうちには、感激の涙をハンケチに隠し切れないうるものも少なくなかった。

ミス・ロレッツは言葉を続けて言った。

『ハーン氏の「生ける神」のハマグチ・ゴヘイに関する部分は、大そう拙い紹介ですが、まず只今申し上げた通りでございます。私は此の文章を一読して、何とはなしに身体中の血潮の湧き立つ気がしてなりません。そしてその時以来、ハマグチの尊い犠牲に心からの尊敬を捧げ、一日として彼の名を忘れた日はございません。此の席には私の親しいお友達もおいでで、それらの方々はよく御存知ですが、私は大分以前から自分の楽しみのために、自分の心で定めた世界的聖人の目録を作って居ります。その中にはキリスト教徒もあり、仏教徒もあり、又ペルシャ教徒もあります。自ら文明人を以て誇る人々が「野蛮人」と呼んでいる人々もあります。然し、私の信ずる聖人は、いずれも美しい徳を有する点に於いて一致しています。それはたとえば貨幣のようなもので、鑄造の相違こそあれ、その実質が黄金——四海同胞という黄金——たる点に於いて少しの差異もないのであります。未だ見ぬ遠い国に生まれ、その血統においても、その風習においても、またその信仰——神学者達が区別しつつある信仰——においても、我々とは全く異なった人種に属するハマグチ・ゴヘイの名前は、私の聖人目録の中にも私の最も頌揚しようとするものでございます。あま

りの慕わしさに、私は家蔵の或る錦絵の中の可憐な一少年に、戯れに「小濱口」なる名を与え、私の部屋の中に掲げて、朝夕言葉をかけています。それで今では私をお訪ね下さる親しい方々も、いつしか同じように此の少年をその名でお呼びになります。私は私の一生のうちいつか機会を得て日本を訪問することが出来たならば、是非共にハマグチの神社へ参詣したいと熱望し、そしてそれ迄の間に、どなたか日本の紀州のお方に、彼はかの事件の後どういう風な生活をしていたか、どんな死を死んだか、彼の神社は現在どんな状態になっているか、というような事柄を委しく承りたいと、心中にふかく願って居ました。たまたま今日の講演者のお名前が濱口様とうかがった折の私の感情は、どんなであったでしょう。

(つづく)

\*\*\*\*\*



昨年、第7回稲むらの火講座で、広川町内の小学校4、6年生が受験しているジュニア防災検定を主宰されている方を講師としてお招きする予定でした。台風が直撃しそうな予想になったため、講演会は中止しました。その講演会用として、ジュニア防災検定の「防災自由研究」の作品をお借りして館内に展示しました。町内をよく調べて、丁寧に作り上げているのに感心しました。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館/津波防災教育センター

〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広 671

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

\*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

\*休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

(世界津波の日の11月5日は開館)

年末年始(12/29～1/4)

\*記念館だけの入場は無料です。